



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

第6回 新たな治験活性化5カ年
計画の中間見直しに関する検討会

平成21年12月1日

資料 4

第6回新たな治験活性化5ヶ年計画中間見直し検討会

橋渡し研究支援推進プログラム の進捗状況について

平成21年12月1日
文部科学省研究振興局

橋渡し研究支援推進プログラム（平成19～26年度）

平成22年度概算要求額： 2,400百万円
平成21年度予算額： 2,400百万円

政策

【マニフェスト】

がん、肝炎など特に患者の負担が重い疾病などについて、支援策を拡充する。

【INDEX2009】

（がん対策、肝炎総合対策、難治性疾患対策、イノベーションを促す基礎研究成果の実用化環境の整備）

○「がん対策推進基本計画」を着実に推進。 ○基礎研究と実用化の一体的な推進を図る。 など

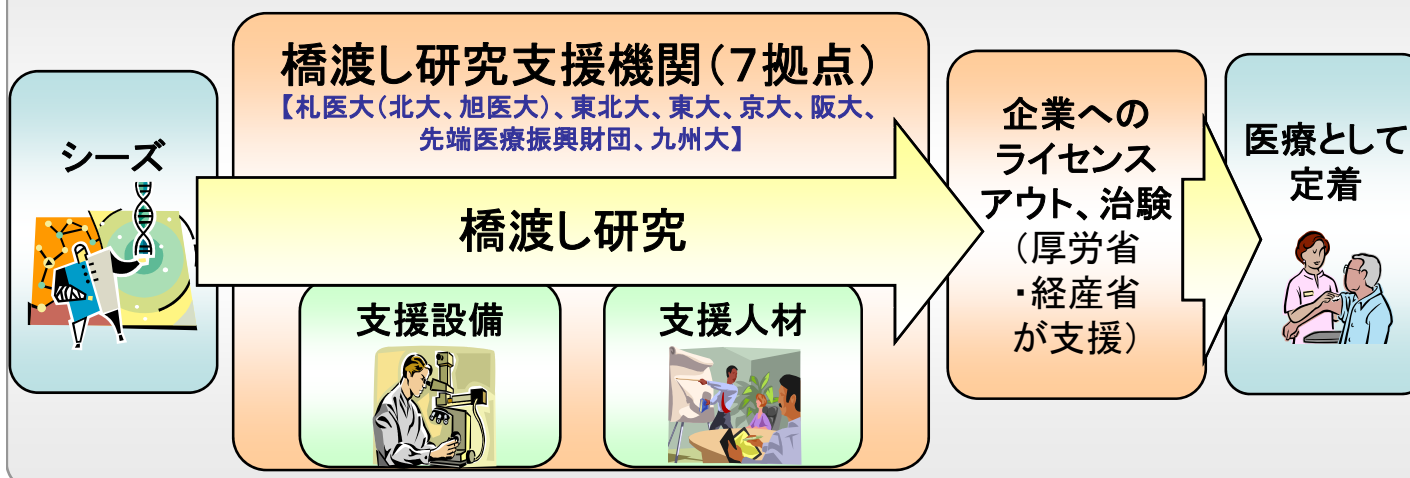
概要

- がんをはじめ、認知症、生活習慣病といった国民を悩ます病に対する創薬や医療技術などについて、**基礎研究の成果を実用化につなげる「橋渡し研究」の支援体制を整備。**
- 全国に7箇所の支援拠点を整備**するとともに、これら拠点に支援される橋渡し研究に対し、**研究費を措置。**
- 平成23年度までに、各拠点2件の研究シーズを治験の段階まで移行させ、拠点の支援能力について一定の確立を図る。

重点事項（中間評価を受けて）

- ①所期目標の再確認：治験2件移行/拠点
- ②プロジェクトマネジメントの徹底：シーズ発掘から臨床試験までの一貫した進捗管理体制
- ③特色化とネットワーク化
 - ・各拠点の特色化を促すビジョンの策定
 - ・拠点共同利用のデータマネジメントシステムを整備
 - ・複数拠点による共同臨床研究
 - ・拠点間連絡会議による共通臨床研究ツール・教材の開発
- ④オープンアクセス化
 - ・他の研究機関のシーズ受入、地域病院との提携、企業との連携体制の強化など。
- ⑤機能の維持と自立化

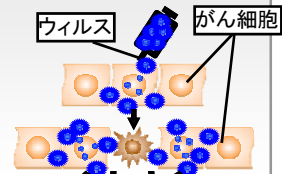
支援拠点イメージ



波及効果と成果の例

■がんのウイルス療法

がん細胞だけで増殖できるように人工的に造ったウイルスにより、がん細胞だけを壊滅させる。



がん患者数：約64万人、国民医療費：約3兆円

■脳梗塞に対する細胞治療

自己の骨髄細胞を用いた新治療法。麻痺していた身体が動くようになるなど、これまで12例で顕著な臨床効果を確認。



脳梗塞患者数：約40万人、国民医療費：約6千億円